

令和 3 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	42	学校名	静岡中央高等学校(定)	記載者	狩野見知穂子
------	----	-----	-------------	-----	--------

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用等により興味関心を引き出す授業、わかる授業の実践 生徒の実態に対応した履修指導体制の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用等により「授業がわかる」生徒 75%以上を維持する 履修率が 75%以上になる 授業において ICT を活用した教員が 100%となる 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用による興味関心を引き出す授業、わかる授業の実践は、社会に出てから、また進学後のスキルに大いに寄与するものと思う。 履修率は目標に対して良好だ。来年度は目標値を上げることも考えてほしい。 ICT活用が必須の支援になってきていることから、今後もより効率的な方法を開発してほしい。 取組目標「生徒の実態に対応した…」への ICT 等活用は、あくまで手段のひとつとして進めていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識を高め、早期に準備を始める進路指導体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 進路の情報を積極的に活用し主体的にキャリアデザインに取り組んでいる生徒が増加する 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 将来への不安が強くみられる定時制生徒への進路意識が高められているので、生徒のニーズに合致した取組を進めてほしい。 校内外の連携、早期に準備を始める、イメージをリアルにするインターン制度などもあれば良いと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> 次期学習指導要領実施に向けて生徒の実態に応じた教育課程の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準を決定し、令和4年度のシラバスを前期中に完成させる 月1回の教科会議を計画的に行い、期限内に評価基準を決定する 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 次期学習指導要領に向けて、シラバスの完成は後期となったが重要であった。教科会議での更なる具現化が求められると思う。 教育課程の切り替わりとなり、多忙を極めるが、目標達成に向け、着実に進めてほしい。 多角的で、客観的で、柔軟な思考方法を身につけ、先人に感謝し、永年の先人達の知恵の蓄積をすべての高校生が感じてほしいと思う。
イ	<ul style="list-style-type: none"> 特別な教育的支援に関する理解の促進と連携体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 学期末、年度末の情報共有作業が職員間に定着し、共通理解が深まる 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターを中心にして、専門分野の役割分担が進み管理職、養護教諭、担任、SC、SSW、精神科医などが連携でき、情報共有、連携体制は良好であった。 「配慮から具体的支援へ」という方向性に感動した。生徒を理解するうえでその背景が大事だと考える。 高校生活はその後の長い生涯への通過点だ。成果課題「卒業後を見通

					<p>した切れ目のない支援」は好着眼と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、個別指導計画の立案、作成といった文字化・言語化が求められる。
ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会・部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の生徒の満足度が90%以上になる ・部活動に意欲的に取り組んでいる生徒が70%以上になる 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも生徒の文化発表週間の満足度が96.3%。対人関係やコミュニケーションが苦手な生徒達にとって、とても有意義な指導と考えられる。 ・SNSや動画配信など、生徒もたくさん知識がある。先生だけでなく生徒が育くめて、表現できる場所をネットに創るのも良いと思う。 ・本校の形態下での部活動は、その位置付けの検討が必要である。
エ	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止 ・人権意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ事案の発生をゼロ件、学校生活が安全で安心できると答える生徒85%以上とする 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ事案が「0件」、学校が安全なことは、学校教育にとって最も重要な事項だと思う。 ・根絶に向けて、教職員の継続的な対応が不可欠と思われる。 ・生徒間暴力や校内での窃盗については、生徒の特性や個性、様々な背景を精査し、多職種間で連携しながら対応していくことが求められる。 ・相談室、SSW等がオープンであり整理ができず門を叩けない生徒が潜在していることも意識してほしい。
オ	<ul style="list-style-type: none"> ・入学希望者の発掘と情報提供の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜志願者数が定員以上になる 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内や学校説明会のチラシの改訂は良い。将来の本校の高校生活の当事者になるかもしれない中学生が知りたいこと、不安に思っていることについてのフレッシュ情報を伝えることがよい。 ・今後、さらに静岡中央高校のセーフティ機能を前端的に情報発信していくことが求められる。 ・コロナ禍で事情を抱えた生徒が多くなったように思う。
カ	<ul style="list-style-type: none"> ・10年後を見据えた学校改善・改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想委員会(P.T含む)が月1回以上開催される ・短期的に解決すべき学校体制の見直しの必要性を全職員が共有する ・今後10年を見据えた学校のグ 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールポリシーの3つの方針はとて丁寧に作成されていた。また、その内容も的確なものである。 ・10年ではなく、短期的に解決すべき見直しについて、早急に検討する必要が有る。 ・将来予測が大変難しい世情ではありますが、グランドデザイン策定に向け、着実な進捗を遂げほしい。

様式第5号

		ランドデザインを学校全体で考える環境が整う			<ul style="list-style-type: none"> ・会議の中で「10年で何かをかえていこうというつもりはなく、できることはすぐに取り組む」に大変期待している。学校のステークホルダーのすべてが問題点の把握をし、公共の高等教育が誰のためのものなのか、根本命題に是非迫ってければと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙化の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時出退勤日の履行率が増加する ・外部人材の活用実績が増加する 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が健康で働けることが大変重要であり、ある程度は勤務の制限を行うような方策(特定の曜日は定時帰宅等)などを考えていくことが必要かと思う。 ・高等学校教育の本旨に照らし、例えば「社会人講座」などの整理を行い、また部活動指導の縮小など、業務全体での整理縮小も必要である。